

2016年4月26日

第678回本委員会の主要議題と概要

日本化学繊維協会

日本化学繊維協会(会長 鈴木 純 帝人株式会社 代表取締役社長執行役員 CEO)は、本日11時より第678回本委員会を開催しました。

主要議題およびその概要は以下の通りです。

1. 第3回先端繊維素材シンポジウムについて

日本化学繊維協会は「第3回先端繊維素材シンポジウム」を以下の通り開催します。第3回目となる今回のテーマは「スマート社会の実現と先端繊維素材」とし、多岐にわたる産業分野(モビリティ、住宅・インフラ、ロボット、医療・ヘルスケア、機能性衣料等)の専門家をお招きして各分野の最先端の開発ニーズと素材情報を融合させ、2030年のスマート社会の実現に向けて、先端繊維が創る未来を提案します。

またシンポジウムと同時に、ポスターセッション、各社展示コーナーも開催します。シンポジウムは事前申込制(申込者多数の場合は抽選)ですが、各社展示コーナーはどなたでもご覧いただけますので、ぜひご来場ください。

●参加申込ウェブサイト

参加お申込みと併せて、参加各社の会社情報や一押し素材をご紹介します。

<http://ps.nikkei.co.jp/sentanseni2016/>

●開催概要

(1) 日時・場所

- ・日時：2016年6月2日(木) 13:00~18:30(開場 12:00) *入場無料
- ・会場：日経ホール(東京大手町) 定員：600名
- *各社展示コーナーは日経ホール6Fにて12:00~18:30

(2) 開催体制

- ・主催：日本化学繊維協会、日本経済新聞社
- ・特別協賛：カケンテストセンター
- ・協賛：帝人、東レ、クラレ、東洋紡、旭化成、ユニチカ、三菱レイヨン、セーレン、オーミケンシ
- ・後援(予定)：経済産業省、日本紡績協会、繊維学会、日本繊維機械学会、日本繊維製品消費科学会

(3) プログラム

時間配分	内容	備考
13:00~13:15	開会挨拶 来賓挨拶	化繊協会 会長 経済産業省製造産業局
13:15~14:00 (45分)	I. 基調講演 「IoTが切り拓く社会」	森川博之先生（東京大学先端 科学技術研究センター 教授）
	II. スマート社会の実現と先端繊維素材	
14:00~14:30 (30分)	1. 「2030年のモビリティと先端繊維」	影山裕史先生（金沢工業大学 大学院工学研究科 教授）
14:30~15:00 (30分)	2. 「2030年のスマートハウスと先端繊維」	田辺新一先生（早稲田大学 創造理工学部建築学科 教授）
15:00~15:15 (15分)	(休憩)	
15:15~15:45 (30分)	3. 「2030年のロボット技術と先端繊維」	柴田崇徳先生（産業技術総合 研究所 上級主任研究員）
15:45~16:15 (30分)	4. 「2030年の医療技術と先端繊維」	三澤裕先生（日本医療機器テクノ ロジー協会 産業戦略委員長）
16:15~16:45 (30分)	5. 「2030年のウェアラブル技術と先端繊維」	板生清先生（ウェアラブル環境 情報ネット推進機構 理事長）
16:45~17:15 (30分)	6. 「スマート社会実現に貢献する先端繊維」	安光玲（帝人株式会社 技術本部技 術開発部門ソリューション開発セン ター 担当課長）
17:15-17:20	閉会挨拶	化繊協会 副会長
17:20~18:30	名刺交換会・情報交換会	

2. 日仏繊維協力WGについて

日仏繊維協力WGの活動の一環で、2月8日~12日の5日間、フランスとイタリアに派遣した代表団の報告がありました。

- ・代表団には、経済産業省（1名）、化繊協会（21名）、繊維学会（1名）の計23名が参加して、①フランスのユーザー企業との交流（BtoB会合）、②イタリア（プラート繊維産地）との交流を行いました。
- ・フランスとの交流：フランスの有力なユーザー企業・機関（ルノー社（自動車）、ジボー社（ヘルスケア）、ヘクセル社（複合材料）、LVMH社（ファッション）、コスメチック・バレー（化粧品のカラスタ））と交流し、日本の化繊各社がもつ先端繊維素材を紹介しました。

- ・イタリアとの交流：日仏連携に続く BtoB の試行的な取組みとして、2月8日にプラート繊維産地を訪問しました。プラート繊維産地は、衣料用やインテリア用テキスタイルを中心に、最近では広くテクニカルテキスタイルの開発を志向しており、日本の先端繊維素材とイタリア（プラート）の加工技術のマッチングによる新市場開拓のコンセプトで交流しました。
- ・今後の予定：6月2日にテクテラ（フランスのテクニカルテキスタイルのクラスター）との交流、2016年後半には第4回日仏繊維協力WG（パリ）の開催を予定しており、2017年5月の協力協定（MoC）期限に向けて進め方を協議することとしています。

3. 最近の通商・繊維貿易動向について

「最近の通商・繊維貿易動向」について概要が、以下の通り報告がありました。

- ・最近の通商関連の動きについての報告がありました。主な事柄は、①2016年4月よりポリエステル原料であるDMTの関税が撤廃されたこと、②中国政府によるアクリル短繊維のAD措置の初期裁定が公告されたこと、③日本のAD措置の要件が緩和され、団体としての申請がやりやすくなったことなどです。
- ・また、日タイ両政府の合意に基づく互恵的産業協力の初年度の成果として、2016年3月にバンコクと東京で、繊維産業協力ワークショップが開催され、会員企業が積極的に参加しました。この中で、アセアンにおける機能性繊維市場の有望性を示す調査会社報告が示されました。
- ・2015年の世界の繊維品貿易の概要について報告がありました。2015年の世界の繊維品貿易は前年比6%減の約7500億ドルと推定され、3年ぶりの減少となりました。中国をはじめ主要国の繊維品輸出は伸び悩みました。こうした中、アセアンを軸とした貿易フロー等、FTAのもとでの繊維品貿易は堅調に推移しました。

<本件についての問い合わせ先>

担当：日本化学繊維協会 技術グループ 兼 業務調査グループ 川名（03-3241-2312）

以上